



いつまで続くかわからないサイトだが、ここに記して歴史に残しておきたい。

<http://www.welovetheiraqiinformationminister.com>

「イラクの情報大臣大好きドット・コム」というわけだ。崩壊したイラク・フセイン政権の情報相を務めていたムハンマド・サイド・サッハーフ (Muḥammad Sa'īd al-Ṣaḥḥāf) を「褒め殺し」的に応援して風刺するサイトである (日本の報道では「サハフ」と表記されていた)。イギリス人でアラスカ在住の元環境保護活動家・作家が立ち上げたものだという。アメリカ軍が多用した複雑で高度な情報戦略 (それがどの程度功を奏したかは不明だが) に対して、昔ながらの大本営発表方式で毅然と対抗したサッハーフは、実際の戦況と彼の発言との間に齟齬が目立つようになるにつれて、全世界的にコミカルなメディア・シンボルと化していった。ロンドンのアラビア語紙『ハヤート』によれば、一秒あたり4000件、8時間で1億1520万件の訪問者があったためネットワークに支障を来し、一時休止を余儀なくされたほどだったという (*Al-Ḥayāt*, 13 April 2003)。サッハーフ自身は有能で視野の広い人物とされている。積極的に圧政に荷担したというよりは、不本意な役を演じざるを得なかったという側面もあるだろう。しかし彼の役割と運命はアラブ知識人全体にとって他人事ではない。注意を怠れば対象地域の「広報官」になってしまいかねない地域研究者にとっても、我が身を振り返る機会となるべきものだ。